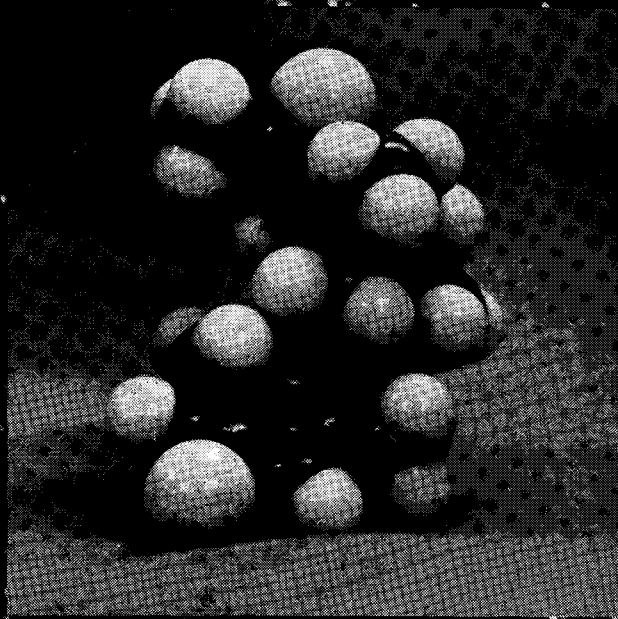
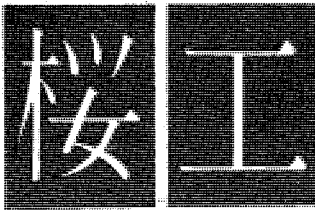


桜工

1962-29



日本大学工科校友会



1 9 6 2

VOL. 7 No. 29

日本大学工科校友会誌

○北習志野に新理工学園センター 4

○解説 工業高等専門学校について 5

座談会

○成果あがった学習 6

加川 正裕・鎌田 吉晴・小山 紘・佐藤 暁彦
 鈴木 洋司・氷鮑 興志・水村 順子・山下 克躬
 下青木秀吉・杉村 俊一

○■当山先生放談録 13

■欧米の国際学術会議に出席して 永井 彰 一 郎...21

見てきたラテン・アメリカ

南・北米の旅から 若 松 文 保...17

ムクト・ヒマールを往く(日大学術調査隊の報告から) 26

詩 オープンホスティング 村 田 悠 紀 夫...20

☆支部だより 香川支部 (30) 新潟支部 (30) 東京都上下水道支部 (30)
 国鉄桜友会 (30) 東京都建設局支部 (31) 神奈川支部 (31)

☆会合だより 理工学部後援会総会 (31) 短大後援会役員 (31) 専建2回
 クラス会 (32)

☆学友短信 吉沢太郎教授, 小村文次教授, 倉西正嗣教授, 粟屋正春
 教授 (32)

☆学内報告 世界青年祭へ3君 (32) 理工学生柔道に日大優勝 (33) ワン
 ゲル (33) らくけん (33)

☆永井教授学術会議員に立候補 (33)

会誌委員

幸 田 太 一・下青木 秀 吉
 藤 本 勝 美・藤 田 幹
 笠 井 芳 夫・大 内 順
 新 沢 順 悦・篠 原 博
 寺 内 良 郎・大 塚 喜 作
 宮 尾 利 政・谷 原 齊
 山 内 盛

北習志野に 新理工学園

センター

発展する日大
のすがた

本誌前号で紹介したとおり、日大では創立70周年記念事業として、全学的な拡充強化をはかり、総合私大としての揺がぬ地歩をさらに固めようとしているが、理工学部に関する計画としては、すでに完成した図書館（6号館）を除いて、7号館の新築、津田沼の校舎新築が計画に盛りこまれている。

津田沼はすでに短大、経工一部の新校舎があるが、日を追って狹隘になりつつある駿河台には、もう土地入手の余地がないとすれば、学園疎開の候補地としては津田沼こそ最も適当とみられていたが、70周年記念事業に盛りこまれていた津田沼土地購入の計画が一部実現し、いよいよ新たな理工学園建設が始まった形である。

日大の建設予定地は、現在の津田沼校舎に接する船橋市習志野町北習志野開拓農地で、戦後引き揚げ者や戦災者が入植し開拓したものの、地味が悪く収穫が少ないため、市の開発協会と日本住宅公団がこの開拓農地99万平方mを買収して宅地を造成することになった。このうち市開発協会を買収したおよそ40万平方mを宅地造成が終る前に売出した。日大ではこれを買収すべく申し込み、約33万平方mを買収契約した。

この一帯のうち2万4千余平方mは、首都圏整備法による緑地帯に指定されており、学校か公共施設のほかに建設できないことになっているため、市としても日大の誘致を歓迎しているという。

日大の計画として伝えられるところでは、ここに新たに設けられる5年制の工業高専を置き、それに付属する生徒、教員の宿舍、さらに短大工科、学部の一部、それから都内にある理工系学部の一部をここに疎開させ、一大理工科学園センターを建設する、というものであるが、船橋市開発協会では「京葉工業地帯の中心地として、工都船橋市の発展が約束されているだけに、日大の理工科学園センターの誘致を歓迎する。将来は公団住宅の建設と合せて、人口5万の文教地区にしたい」と意気込んでいる。

日大がここに理工科系のどの部分を移すかは詳らかにされていないが、この一帯が日大の新しい学園になることは、そう遠い先のことではないだろう。

なお、習志野一帯に新しい日大学園センターが出現すれば、充実した中級技術者の教育に重点がおかれて行なわれるのではないかと推測されるが、中級技術者ばかりでなく、大学の収容人員もさらに増加できることは予想され、この点では産業界の注目をひくことになるだろう。しかし一方で、マスプロ化する学校教育に対する批判も起るだろうが、そこは教授陣と設備の拡充によって完璧に補っていくことを、学校当局としても当然考えていることだろう。ともあれ新学園センターの建設は校友としても大いによろこびとするところである。



桜 工 第 29 号

昭和年10月20日印刷

昭和年10月25日発行

編集兼
発行人 高木 政 司

発行所 日本大学工科校友会

東京都千代田区神田駿河台1の8

電話東京 (291) 3 3 5 1 (206)

振替東京 1 6 2 7 1 0 番

印刷 鉄鋼新聞印刷部